

みらい 第 I 期中期計画 プロジェクト

2016 年 1 月～2018 年 12 月



～ 明るい未来を拓く workshop ～

地域活性	「地域おこし人サミット」	磯山友幸座長
国際交流	「定住外国人政策研究会」	國松孝次座長
女性活躍	「社会生産性研究会」(仮称)	斉藤 惇座長
教育改革	「AI 時代におけるリベラルアーツ」	(座長未定)

1. 第 I 期中期計画プロジェクトの前提

未来を創る財団は、中長期視点において日本社会の諸問題を視野に入れ、それらの解決と新しい社会構築に貢献するため、「明るい未来を拓く workshop」プロジェクトを推進。その成果を『提言』にとりまとめ発信し、持続的に波及することに注力する。

2. 「明るい未来を拓く workshop」活動の対象領域

対象領域選定の基準

- ・社会的コンセンサスの下に「継続して取り組み実現すべき課題、テーマ」領域
- ・政権や政策に左右されることなく、「国内外で総力をあげて取り組むべき課題」領域
- ・成果を上げるまで時間を要し、設立以来掲げてきた「社会の中長期的課題」領域
- ・単独では成果があがりにくい「底流において相互に関連しあう重要課題」領域

選定した対象領域 上記の選定基準に基づきつぎの 4 領域を選定

「地域活性」地域社会・地域文化の再構築と新たな展開

「国際交流」新たな視点による「交流」へとりくむ

「女性活躍」女性が活躍できる社会の構築へ「社会の生産性改革」にとりくむ

「教育改革」グローバル化社会、AI 社会での「自立・決断・責任」教育

3. 「明るい未来を拓く workshop」活動の内容

” workshop A ” 「地域活性」

日本の将来を左右する重要課題の一つ。行政主導によるアプローチでは限界がある。

地域の活性化には、何よりも明治以来失われてきた各地域の文化を再興することが不可欠。地域の特色、魅力、愛着を大切にして、地域文化を再興し、地方・地域を再生する。

” workshop B ” 「国際交流」

人類は移住定住を繰り返しながら文明を発展させ、今日のような豊かな社会を迎えた。人の移動は基本的に自由であることが人類本来の姿と考えられる。

他国からの人びとを迎え入れることや、異文化との交流による刺激・触発・活性は、新しい未来を拓く可能性を人びとに与える。

” workshop C ” 「女性活躍」

日本の女性が社会で活躍する比率は、国際比較できわめて低い水準にある。

おもな原因は、労働に対する評価基準の問題と女性に固有の課題である出産に対する社会的態勢と対応が不十分であること。その背景に職場における長時間労働の問題がある。

長時間労働の主因は、わが国特有の低い生産性にある。

問題の抜本解決には、大局的見地に立って、社会を構成するあらゆるセクターを視野にいれ、「社会全体の生産性の改革」に取りくむ必要がある。

” workshop D ” 「教育改革」

遠山敦子氏「いま教育改革が目指すもの」（トヨタ財団理事長・元文部科学大臣）（本財団「ニュースレターFuture +」第4号）に述べられた以下の認識の下に取りくむ。

『いつの時代も、どの国でも、一国が岐路にたつとき、あるいは未来に希望を見出したいとき、必ず教育の重要性が説かれるものである。』（遠山敦子氏）

日本がいま直面する問題として；

1 近い将来確実に到来する急激な人口減の問題。

これまで日本が経験したことがない少子化、高齢化の到来。

その時、今の子どもたちは果たして満足できる人生を自ら紡ぎだせるか。

2 世界はグローバル化の波に洗われている。これからの人生を生きる子どもたちにグローバル時代を生き抜く力を身につけるよう教育の力点を置くことが不可欠である。

3 日本は膨大な財政赤字、社会保障費の増大という避けがたい難問に直面し、これらをどう解決していくのか。資源なき日本は世界における科学技術の研究開発の最先端を常に走り続けることで成り立ってきたが、近年は、財政難による研究開発費の停滞、大学予算の減少、研究者層の弱体化など日本の将来が懸念される。

教育には、いかにして困難に立ち向かい創造性やイノベーション力を発揮でき、他者と協働できる優れた資質をもつ人材を育成していくかが極めて重要な課題となる。

日本の教育の質的向上には、大学の改革こそが不可欠である。大学の在り方が変われば、その下の高等学校教育が変わり、次第にその下の段階の学校に影響が及ぶからである。

『各大学は自らの大学のねらいと改革目標を明確にし、この機に抜本的な改革に取り組みを求めたい。それには大学の歴史、改革の潮流、小中高など日本の教育界全体への影響を見極めたうえ、グローバル時代を牽引する大学の役割など多方面にわたる俯瞰的な視野にたって進める必要がある。』

社会の側においても、将来性ある真に実力を備えた人材の育成のために、理解と支援が必要である。

教育の果たす役割は想像を超えるものがある。教育への投資が巨大な果実を生むことを忘れてはならない。